

11 ミャンマーの動向



面積	68 万平方キロメートル(日本の約 1.8 倍)
人口	
首都	ネーピードー
民族	ビルマ族(約 70%), その他多くの少数民族
言語	ミャンマー語
宗教	仏教(90%), キリスト教, 回教等
大統領	
通貨	チャット(Kyat)
為替レート	1ドル=818 チャット(中央銀行レート)(2012年4月平均)

内政

(1) 1988年、全国的な民主化要求デモにより26年間続いた社会主義政権が崩壊したが、国軍が政権を掌握した(1997年、SLORCは国家平和開発評議会(SPDC)に改組)。

(2) 1990年には総選挙が実施され、()氏率いる**国民民主連盟(NLD)**が圧勝したものの、政府は民政移管のためには堅固な憲法が必要であるとして政権移譲を行わなかった。

総選挙以降、政府側が()氏に自宅軟禁措置を課す一方で、同氏は政府を激しく非難するなど、両者の対立が続いてきた。2003年5月には、()氏は政府当局に拘束され、同年9月以降、3回目の自宅軟禁下に置かれた。

(3) 2003年8月、キン・ニユン首相(当時)が民主化に向けた7段階の「ロードマップ」を発表し、その第一段階として、憲法の基本原則を決定するため国民会議を開催する旨表明した。同年5月、国民会議が約8年ぶりに再開され、継続的に審議が行われた。

(4) 2005年11月7日、ミャンマー政府は、首都機能をヤンゴンからピンマナ県(ヤンゴン市の北方約300キロメートル)に移転する旨発表。2006年3月頃までに政府機関は概ね移転を終了し、移転先は()市と命名された。

(5) 2007年9月、全国的な僧侶のデモが発生。治安当局による制圧で、邦人1名を含む多数の死傷者が発生。

(6) 2008年5月2日、サイクロン・ナルギスがミャンマー南西部を直撃し、死者約8万5千名、行方不明者約5万4千名が発生。

(7) 2008年5月10日、新憲法草案採択のための国民投票を実施(一部地域は24日に実施)。92.4%の賛成票で(投票率99%)で新憲法承認。2010年11月7日、総選挙が実施されたが、()氏率いるNLDは総選挙をボイコットした。

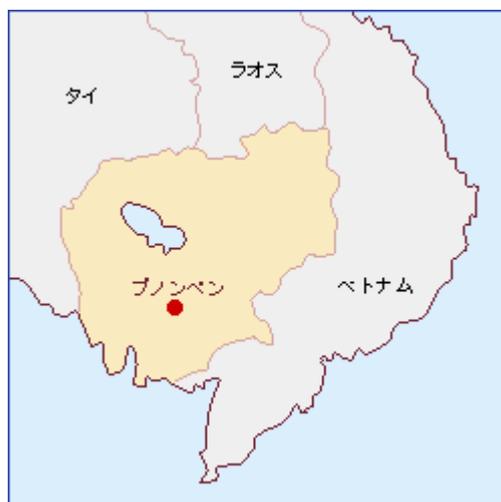
(8) 2010年11月13日、()氏に対する自宅軟禁措置が解除された。

(9) 2011年1月31日、総選挙の結果に基づく国会が召集され、2月4日、副大統領3名が国会で選出された。

(10) 2011年3月30日、3名の副大統領のうち、テイン・セイン氏が大統領に選出。これにより新政府が発足し(同時に国名も変更)、国家平和開発評議会(SPDC)から政権が委譲された。

(11) 2012年4月1日、議会補欠選挙が開催され、()氏率いるNLDが45議席中43議席を獲得。

12. カンボジアの動向



面積	18.1 万平方キロメートル(日本の約 2 分の 1 弱)
人口	
首都	プノンペン
民族	カンボジア人(クメール人)が 90%とされている。
言語	カンボジア語
宗教	仏教(一部少数民族はイスラム教)
首相	
通貨	リエル
為替レート	1 米ドル=約 4,066 リエル、2011 年末時点、カンボジア中央銀行資料

略史

年月	略史
9～13世紀	現在のアンコール遺跡地方を拠点にインドシナ半島の大部分を支配。
14世紀以降	タイさらにベトナムの攻撃により衰退。
1884年	フランス保護領カンボジア王国。
1953年	カンボジア王国としてフランスから独立。
1970年	ロン・ノルら反中親米派、クーデターによりシハヌーク政権打倒。王制を廃しく メール共和国樹立。 親中共産勢力クメール・ルージュ(KR)との間で内戦。
1975年	KRが内戦に勝利し、民主カンボジア()政権を樹立。同政権下 で大量の自国民虐殺。 ベトナム軍進攻でKR敗走、親ベトナムのプノンペン(ヘン・サムリン)政権擁 立。
1979年	以降、 <u>プノンペン政権とタイ国境地帯拠点の民主カンボジア三派連合</u> (KRの 民主カンボジアに王党(シハヌーク)派・共和(ソン・サン)派が合体)の内戦。
1991年	パリ和平協定。
1992年	国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)活動開始(1992～93年、日本初の国 連PKO参加。)
1993年	UNTAC監視下で制憲議会選挙、王党派フンシンペック党勝利。新憲法で王 制復活。ラナリット第一首相(フンシンペック党)、フン・セン第二首相(人民党: 旧プノンペン政権)の2人首相制連立政権。
1997年	首都プノンペンで両首相陣営武力衝突。ラナリット第一首相失脚。
1998年	第二回国民議会選挙。第一次フン・セン首班連立政権。
1999年	上院新設(二院制へ移行)。 <u>ASEAN加盟</u> 。
2003年	第三回国民議会選挙。
2004年	第二次フン・セン首班連立政権発足。 シハヌーク国王引退、シハモニ新国王即位。WTO加盟。ASEM参加決定。
2006年	上院議員選挙
2008年	第四回国民議会選挙。第三次フン・セン首班連立政権発足。
2012年	第二回上院選挙
2013年	第五回国民議会選挙。第四次フン・セン首班連立政権発足。

13. ラオスの動向



面積	24 万平方キロメートル 2.人口
人口	
首都	ビエンチャン
民族	ラオ族(全人口の約半数以上)を含む計 49 民族
言語	ラオス語
宗教	仏教
国家主席	
首相	
通貨	キープ (Kip)
為替レート	1ドル=7.847.69 キープ(2013 年 9 月, ラオス統計局)

略史

1353年、ランサーン王国として統一。

1899年フランスのインドシナ連邦に編入される。

1949年仏連合の枠内での独立。

1953年10月22日仏・ラオス条約により完全独立。その後内戦が繰返された。

1973年2月「ラオスにおける平和の回復及び民族和解に関する協定」が成立。

インドシナ情勢急変に伴って、1975年12月、ラオス人民民主共和国成立。

ラオスは山岳地帯